

## 2019年度人權ゆかりゼミ 6月12日レジメ

「都名所図巻」中巻続き 24紙目から30紙目

### 前回の残り（前回レジメに重複分）

#### 22紙

花時の清水寺一帯を描く。この当時の清水寺は、寛永6年（1629）の火災で全山が焼失した後、徳川幕府の援助によって再建された景観で、その大部分は今日に残されている。

（上段）

きよみづしゆぎやう（清水執行）

清水寺の寺内組織は執行・目代と六坊と呼ばれた5人の寺僧によって構成されていたが、江戸時代は執行が宝性院、目代が慈心院によって世襲されていた。故にここでいう執行は宝性院のことである。

きよみづおくのせんじゆ（清水奥の千手）

清水寺の本堂は懸崖造りとして著名であるが、本堂奥に西面して建つ奥院もまた千手観音を本尊とする懸崖造りの建物である。

きよみづほんどう（清水本堂）

創建当初の寝殿造りの面影をとどめる本堂は、9間7間の大きさを誇り、前面に左右延びる翼廊の間の板敷きが、清水の舞台として有名である。本尊は十一面千手観音。多くの庶民から信仰され、西国三十三霊場の十六番札所で有ることは、今も変わりがない。

ぢしゆごんげん（地主権現）

清水寺の鎮守社。明治維新以前は、地主権現の名で呼ばれていた。このはたりは古くからの桜の名所。石段上にある2つの石は、「目をふさぎて、掘りすえたる石より石まで歩みよるに、中々すぢかふて行あたらすとぞ」（『出来齋京土産』）という占い石で、中世以来著名であった。現存する。

（下段）

子やすのぢぞう（子安の地蔵） 子安塔

檜皮葺きの小さい三重塔で、現在は本堂の遙か南、錦雲溪を隔てた地に移されるが、江戸時代は西門の外側にあり、安産祈願の信仰で賑わった。本尊は観音であるが、脇土の地蔵尊が安産祈願の対象であったようである。

きよみづろうもん（清水楼門）

清水坂を登りきった所に西に面して建ち、通称を仁王門という。室町時代の建築で、古くは地主神社の門であったという。

しかまづか（鹿間塚）

坂上田村麻呂と僧延珍による清水寺創建にかかわる塚。田村麻呂が射止めた鹿を、延珍の戒めによりこの地に吊ったといわれる。

たきの水（瀧の水）

清水の滝。奥の院の崖下に三筋流れ出る。この水で直接垢離を取る信者が多かったが、持ち帰り薬ともした。多くの水汲みがいたのは、この水を汲んで湯浴みしたからである。

たむらどう（田村堂）

清水寺創建の檀那であった田村麻呂を祀る堂。

あさくらどう（朝倉堂）

本堂の西にあり、越前領国主朝倉貞景によって建立された堂。

きよみづのほんぐわん（清水の本願）

成就院をいう。本願寺とも号し寺の経営を一手に引き受ける勸進所でもあった。その庭からは洛中が見渡せる。

ふくろの水（梟の水）

本堂に入る轟橋の横に手洗水である。水盤の台石に鎌倉時代の宝篋印塔の一部が使用され、その四隅に梟の如き文様があることからこの名で呼ばれる。図では鳥居が描かれるが、本来この位置には轟門（中門）が位置しているはずである。

---

ここから 6月 12日分

## 23 紙

大和大路の東側、建仁寺から三十三間堂までを描く。

（上段）

けんにんじ（建仁寺）

臨済宗の本山。建仁二年（1202）に鎌倉武士の援助により、この地に堂舎を建立した。中世兵火により何度も被災したが、秀吉の助力で復興したが、寺地は当初四条通りから五条通り（現松原通り）までを占めたが、北は祇園町の成立などで狭まっている。

つぎのふ・たゝのふはか所（継信・忠信墓所）

渋谷通り東大路東入るにあつて、義経に従った武将佐藤継信と忠信兄弟の墓所という伝承のある十三重石塔。一基に「永仁三年二月廿日立之 願主法西」の銘があり、永仁三年（1295）、鎌倉時代の建立であ

ることが分かる。馬町から渋谷通りを東に入った北側にあったが、現在は京都国立博物館構内に移築されている。もちろん継信・忠信の墓所というのは伝承で、鳥辺野の総供養塔であったともいわれる。

#### 若宮八まん（若宮八幡）

元左女牛西洞院通りにあった神社で、六条左女牛八幡と呼ばれた。源氏と関係が深く、鎌倉・室町時代に栄えたが、天正一一年に秀吉の寺社政策により、方広寺の北に移転。慶長期に再び五条通りの東山近くの現在地に移された。

#### みゝつか（耳塚）

方広寺大仏の門前に、慶長二年（1597）に築かれた塚。頂きに五輪塔が建つ。文禄の役で持ち帰った朝鮮人戦死者の耳や鼻を埋めて供養した塚。朝鮮通信使が来朝したおりに、参拝があったと伝える。

#### 大ぶつ（大仏）

豊臣秀吉によって建立された方広寺を、その本尊の大きさ故に通称大仏と称された。文禄四年（1595）には一度完成したが、大地震のために崩壊。以後秀吉の死などにより、息秀頼に引き継がれて再興事業が進められたが、慶長七年に失火し、漸く慶長一九年になってほぼ完成を見た。しかしこの寺の梵鐘がきっかけで豊臣家は滅亡し、妙法院の管理下に置かれたが、寛文二年（1662）の地震で壊れたために木仏に代えられ、その落慶供養が寛文七年に行われている。画像は大仏自体を描かない。また隣には豊国神社があったはずであるが、修理などの手は加えられず、荒れたままに放置されていたはずである。

（下段）

#### 三十三間 付やかず（三十三間 付矢数）

正式寺名を蓮華王院といい、平安時代末期に後白河法皇の勅願によって建てられた寺院であるが、建長元年（1164）に一度焼失。文永三年（1288）に再建された。その後の戦乱で荒れ果てたが、最後まで残った千体観音堂（本堂）を中心に、秀吉によって方広寺の山内寺院として手厚く保護され、江戸時代は妙法院の管理下で、東山名勝の一つとされた。なお矢数とあるのは、この堂の南側 66 間を射通す通し矢のことで、慶長頃に始まったといわれる。

#### 大仏みやうほうゐん（大仏妙法院）

天台宗山門派の門跡寺院として古い歴史を誇るが、現在地への移転は秀吉の大仏建立にともない、その経堂とされたことによる。豊臣家滅亡後は、家康により方広寺（大仏）・新日吉神社・蓮華王院（三十三

間堂)の管理を任された。大仏妙法院の名はそれ故である。

#### もんじゅゐん (文殊院)

天正一四年に豊臣秀吉によって豊国神社内に建立されたが、後に妙法院に管轄させられた。

### 24 紙

同じく東山の山麓一帯を描く。

(上段)

#### せひかんじ山 (清閑寺山)

東山のうち、清水山の南にあり、その間を歌の中山という。『名所都鳥』には「此山木石すねて風景異なり、樹木の枝を立花にもちゆ」と記す。清閑寺がある。

#### おおたに (大谷)

鳥部山の南にある谷で、慶長年間に親鸞上人の廟がこの地に移され、元禄期には廟堂が建立される。江戸時代前期は藤の名所として知られた。図でも藤棚を描く。

(下段)

#### 西御もんせきゐんきよ (西御門跡隠居)

現在の西大谷廟の地か。親鸞は死後鳥辺野北の大谷に納骨されたが、その廟は江戸時代初頭に、知恩院の寺地拡大によって鳥辺野延年寺山に移転させられた。寛文元年、この地には仏殿が建立された。隠居所としても使用されていたのかも知れない。

#### とりべの (鳥辺野)

平安時代以来の葬地。東山の阿弥陀ヶ峰の裾野一帯の広い地域を指したが、江戸時代は清水坂より南、小松谷(現馬町)付近に狭まっていたようである。

#### ようげんゐん (養源院)

三十三間堂の東側、智積院との間に位置する天台宗の寺院(現浄土宗)。淀君が父浅井長政の菩提を弔うために建立した寺院であるが、元和五年(1619)に焼失。しかし淀君の妹徳川秀忠夫人の手で再興された。

#### 六はらくわんおん (六原観音)

六波羅密寺。空也上人の建立した西光寺を、弟子中信が継いで天台宗の寺院とした。西国三十三所の札所とされ、室町時代以降は本尊の十一面観音が庶民信仰の対象となった。本堂は南北朝期の建立。

## 25 紙

同じく東山山麓、豊国神社から大和大路を南に、東福寺・万寿寺までを描く。

(上段)

とよくに (豊国)

阿弥陀ヶ峰に造営された豊臣秀吉の廟所は、江戸時代には新日吉神社参道によって塞がれ、廃墟と化した。図でも築地塀の破れた様子を描いている。

ちしやくみん (智積院)

妙法院の南側に位置する。徳川家康によって紀州根来寺から移転した寺院で、その寺地は、秀吉が長男鶴松の菩提を弔うために建立した祥雲寺と、豊国神社の坊舎の一部を使用している。

せんにうじ (泉涌寺)

伏見街道の東、東山の月輪山山麓にあり、天皇家の菩提所として「御寺」と呼ばれた。寛文八年(1668)には後水尾院の院宣によって仏殿が建立されているが、この図はそれ以前のものか。

(下段)

おとわはし 付ふしみかいどう (音羽橋 付伏見街道)

五条橋から伏見に至る街道を伏見街道と呼ぶが、途中、清水の音羽の滝を源とする音羽川を渡る。その橋を音羽橋と称した。

とうふくじ (東福寺)

泉涌寺の西側、伏見街道に沿って広い寺地を占める。鎌倉時代、九条道家を壇越として建立された臨濟宗の寺院で、多くの塔頭がある。

まんしゆ寺 (万寿寺)

東福寺の北側に位置する。本来白河天皇の里内裏であった六条内裏を、承德元年(1097)に皇女郁芳門院が寺院としたもので、六条御堂と呼ばれた。天正年間に寺地を東福寺山内に移した。

## 26 紙

伏見街道をさらに南下して、稲荷・深草・藤森までを描く。

(上段)

いまくま (今熊)

今熊野の略。本来、泉涌寺の北側、東山山麓に広がる今熊野と称する村であるが、西側の伏見街道沿いが早くから町場化していた。

一のはし (一之橋)

東山から流れ出た水を集め、今熊野川として西流する途中、伏見街道

に架かる橋。この橋が最近京都市の文化財に指定された。

#### いなり（稲荷）

伏見稲荷社。稲荷山の西麓、伏見街道沿いに鎮座する。平安京建都以前から、秦氏によって祀られていた。本来農業神であるが、茶枳尼天も祀られ、庶民にはその信仰が普及した。図は命婦社の前で巫女が湯立てを行っているところが描かれる。

（下段）

#### 二のはし（二之橋）

東福寺背後の恵日山を発し、寺内を西流する二之橋川の、伏見街道に架かる橋。

#### ほうしょうじ（法性寺）

藤原忠平が延長四年（925）に建立した寺で、藤原氏の氏寺として広大な寺域を誇った。九条家一流が相承したが、道家の時、その地に東福寺が建立され、堂舎はその塔頭に吸収された。

#### ふかくさ（深草）

伏見街道沿いの村。近世以前には多くの寺院が営まれていたが退転。図中に門を開くのは、明暦元年（1655）草創の日蓮宗瑞光寺か。

#### ふぢのもりもん（藤森門）

深草の南、藤森に鎮座する藤森神社に入る門か。

#### ふぢのもりみや（藤森宮）

藤森神社。当社の祭礼は深草祭りとして有名。現在の社殿は正徳二年（1712）の建築である。拝殿を大きく描く本図は、それ以前のものである。

### 27 紙

再び北に戻り、一乗寺から高野川沿いに下って、田中・百万遍一帯を描く。

（上段）

#### いちやうじ（一乗寺）

比叡山西南麓の高台に位置する村。

#### 百まんべん 付はかわら（百万遍 付墓原）

一乗寺村の南に続く田中村にあった浄土宗の寺院で、知恩寺と号す。鎌倉時代末期に、七日念仏百万遍を修して疫病を鎮めたことから百万遍の名を得たという。元は上京にあったが、寛文二年に現在地に移転した。この図は移転後の完成間もない知恩寺を描く。

#### たなか（田中）

高野川と賀茂川の合流点より、高野川上流域に広がる村。図ではのどかな田植風景を描く。

(下段)

**ほしなでら** (干菜寺)

田中村内にあった浄土宗の寺。光福寺と号すが、秀吉が鷹狩りの途次、この寺で休息した時に干菜を供し御感を得たことから一般には干菜寺と呼ばれる。六斎念仏の統括寺院として知られる。

**ふくぜんじ** (福禅寺)

古くは今出川にあった寺であるが、八条殿を建立するために、秀吉によって田中村に移された。

**みたらし** (御手洗)

田中村の高野川対岸にある下鴨神社の御手洗川(泉川)を描く。神社自体は次紙下段に描くが、六月末日に御手洗川で行われる水無月祓えがよく知られており、その習俗をここに描いている。

## 28 紙

さらにその南側の吉田の地と、高野川の西側の地。

(上段)

**よしだ** (吉田)

神楽岡(吉田山)と、その付近の地名。神楽岡西麓には藤原氏の氏神吉田神社が鎮座する。この神社の境内にあった八角形の大元宮は庶民信仰の対象でもあった。

**よしだどのおこもりやしき** (吉田殿お籠もり屋敷)

吉田神社の神官吉田氏の屋敷か。当時お籠もり屋敷と呼ばれていたらしい

**かすが 付中山** (春日 付中山)

奈良の春日社を貞観年間に藤原山蔭が勧請した神社で、吉田神社の旧地とも考えられる。中山は金戒光明寺北側の門外、神楽岡との間の谷で、古くからの墓所であり火葬場があった。

**ぜんしゅうじ** (善正寺)

日蓮宗の寺院で関白秀次の母が、秀次追福のために建てた寺である。

**きちでんじくわんおん** (吉田寺観音)

金戒光明寺(新黒谷)の中の観音堂。吉田寺は吉備真吉備の建立した寺と伝えるが、当時はすでに退転しており、本尊の観音像のみが庶民の信仰を集めていたようである。

(下段)

### しもかも（下鴨）

下鴨神社。賀茂御祖神社が正称。この神社が鎮座する糺森は、庶民の憩いの場としても知られていた。

### まつがさき おどり（松ヶ崎 踊り）

下鴨村の北に位置する村で、一村全部が日蓮宗として知られる。そのためにこの村の盆踊りは、お題目で踊る「題目踊り」として著名であった。

### しやうごみんもり（聖護院森）

吉田の南、聖護院村にあった森。二条河原より神楽岡方面に行く入口にあたる。聖護院門跡の領有故の名であり、この時期聖護院自体は上京に在った。図に描かれる社殿は熊野神社と思われる。

## 29 紙

吉田山の東側から南にかけての地を描く。

（上段）

### くろたにはかはら（黒谷墓原）

金戒光明寺のあるあたりは古くからの墓地であった。

### くろたにほんどう（黒谷本堂）

金戒光明寺の付近を黒谷と呼んだため、寺自身をも異黒谷の名で通称する。図はその本堂。比叡山黒谷に居た法然上人が、この地に念仏道場を開いたのに始まると伝え、初めは新黒谷と称された。

### しゝがたに（鹿ヶ谷）

如意ヶ嶽の西麓に広がる地で、西は白川を隔てて神楽岡。図中に流れる川は白川である。

### びくへの御所（比丘尼の御所）

後水尾院が皇女多利宮のために承応三年（1654）に創建した尼寺で靈鑑寺という。溪流に沿う寺院であったため、谷御所とも呼ばれた。当時は建立して間もない時期である。

（下段）

### じやうどじむら（浄土寺村）

鹿ヶ谷の北側にある村で、高燥な豊かな村といわれる。

### ぎんかく寺（銀閣寺）

足利義政が建てた山荘東山殿を、死後に寺に改め慈照寺と号した。北山の金閣（鹿苑寺）に対し、境内の観音殿を銀閣の名で呼ぶ。

### にやくわうし（若王子）

鹿ヶ谷にある神社で、平安時代後期に熊野那智権現を勧請したのには



じまる。永観堂の鎮守とされた。江戸時代は聖護院門跡の院家。

### 30 紙

さらに場面は南を辿る。

(上段)

#### おかざき 付まつり (岡崎 付祭り)

吉田村の南に位置する岡崎村の鎮守東天王社(現岡崎神社)とその祭礼を描く。その祭礼は旧暦九月一六日で、劍鉾が七本出された。その内の一本は大鷹鉾とよばれて、室町時代より著名であった。

#### 京ごくりんじやしき (京極臨時屋敷)

河原町六角の東側にあった高松藩京極家の屋敷が、承応三年(1654)五月に炎上したため、その臨時屋敷が岡崎村にあったようである。

#### やうくわんどう (永観堂)

南禅寺の北に位置する浄土宗の寺院で、禅林寺と号す。本尊の阿弥陀如来は、振り返る姿であることから、見返り阿弥陀と呼ばれる。

#### なんぜんじ (南禅寺)

東海道が東山に掛かる地の北に位置する臨済宗の寺院。応仁の乱で焼失した堂舎を、江戸時代初頭に再興して今日に至る。図に描かれた仏殿は明治二八年に焼失した。

(下段)

#### しんめい (神明)

粟田山の支峰大日山麓、東海道に面して鎮座する。現在の日向神社のこと。日向神社の名は、式内社に当てて明治期に命名したもので、古くは朝日宮とか粟田神明宮などと呼ばれた。

#### やすいもんぜき (安井門跡)

一般に安井門跡といえは八坂神社に近い現東大路通り沿いの旧跡をいう。なぜここに記されるかが分からない。当時、永観堂の北に東福門院が建立した光雲寺の誤記であるかもしれない。

#### こまかたき 付ざぜんせき (駒ヶ瀧 付座禅石)

南禅寺の背後、東山山中にある滝で、白川の源流。高さ九メートル程で、左右に巨岩が聳え立つ。最勝光院の住持狛僧正が座禅を組んだといわれる。